

令和7年度 佐賀市立本庄こども園評価結果

1 教育目標

感性豊かで健やかにのびのびと活動する子どもの育成

○夢中になって遊ぶ中で学びの芽を育む ○身近な人、地域、環境に豊かな心情を育む ○自ら健康で安全な生活をつくり出す力を育む

2 本年度の重点目標

① 園児が自ら主体的に環境に関わる力の育成

② 子育て中の親子が気軽に集い交流活動や子育ての悩みを相談できる支援センターの運営

③ 本庄小学校との幼小一貫教育の推進

3 重点取組の内容と結果報告

評価項目	取組内容	具体的目標	具体的取組	実施結果
学びづくり	- 遊びを工夫する力の育成 - 自らの遊びを振り返り期待をもちながら遊びを楽しむ力の育成	- 園児の学びと育ちを肯定的に捉え、学びの過程を意識した指導計画の工夫に取り組む - 各クラス年2回の公開保育を通して保育を語り合う	- 実践を基に園児の姿から育とうとしている資質・能力を見取り、保育教諭の援助や環境構成を振り返る - 職員同士が連携を取り、週案を基に指導体制を整える	園内研を通して子どもの姿を多方面から見合うことで育ちと学びを確認し、遊びや関わり方など環境構成に活かしながら取り組むことができた。今後は、保育教諭の仕掛けについても話し合っていきたい
心づくり	- 豊かな感性の育成 - 自分なりの表現を楽しむ力の育成	幼児理解に取り組み、遊びの時間や空間を十分に保障し、五感を生かして遊べる教育環境に取り組む	- 日々の保育の振り返りを通して感性を磨き、保育の質を高める - 指導計画を基に柔軟に修正し、園児にとって魅力ある環境づくりに取り組む	様々な研修会に参加し、学んだことを活かして保育の質の向上に取り組み、共有化に努めてきた。特に、広い屋外の主体的な遊びに向けて環境づくりに取り組みたい。
健康・体づくり	- 望ましい生活習慣の形成 - 安全に関する資質能力の育成	- 基本的な生活習慣を身に付け、健康に生活する力を育てる - 安全指導により、自分の命は自分で守る意識を高める	- 生活習慣の定着に向けて、全体指導と個に応じた日々の指導に取り組む - 安全指導を受けて実践の場を活用し、災害等から自分を守る意識を高める	講話・体験活動等により、自分でやってみようとする姿を大切にしてい見守り励まししながら定着へ取り組んできた。個々の取り組みには個人差もあり、家庭とも連携を取りながらすすめていきたい
支援センターの運営	- 子育て支援センターの事業の充実 - 地域の子育て支援の推進	定期的な「つくしんぼうだより」を発行し、サロンや相談事業等の周知と利用につなげる	- 定期的な話し合いを行い、事業の遂行と改善を図る - 専門家の助言をもとに支援体制の充実を目指す	サロン等の指導計画は担当者を中心に内容確認や再考を行い、より良い支援につなげるように取り組んだ。さらに本園の特色を生かし、地域に根差した支援に取り組みたい

幼・保・小連携	・本庄小学校との幼小一貫教育の推進	双方の保育参観や授業参観を行い、幼小12年間の育ちと学びの共通理解を図る	・交流活動の前後に打ち合わせを行い活動のねらいを明確にする ・幼小連絡会議や参観後の意見交換会等で目指す子ども像を共有する	交流前に校区での事前の打ち合わせを行い、幼保と小学校どちらにとっても学びのある活動になる取り組みができた。幼小の違いを理解しながら育ちと学びのつながりを意識した交流活動を継続していきたい
業務改善・教職員の働き方改善の推進	・園務の整理や行事の精選等業務の効率化のための取り組み ・教職員の働き方の意識改革の推進	・園経営方針を基に目的に合った教育活動に取り組む ・園内での共通理解に取り組む	・会議前に打ち合わせ会を行い会議の焦点化と効率化を図る ・職員会議A、Bや適宜の連絡会等で全職員への周知と共通理解を図る	コミュニケーションや対話の活性化を図ることで、教材研究や行事運営・課題解決に協力して取り組むことができた。今後、リーダー会議（クラスの世話係）も適宜開催し、諸課題の解決に取り組みたい

4 総合評価、次年度への展望

- ・園内研では各クラス2回の公開保育を通して、園児が主体的に環境に関わることができるよう保育教諭の資質向上に取り組んだ。園内での遊びマップを作成し、さらに保育の環境づくりに取り組んでいきたい。
- ・支援センターの周知により利用者の定着や広がりが見られた。園と支援センターとの共催での活動を開催することができ、本園のよさを活かすことができた。さらに、地域との連携を深め、活動を広げていきたい。
- ・本庄小学校校区で交流会の事前打ち合わせを実施し、子どもの育ちや学びについて幼小で話し合うことができた。今後も、幼小の違いを認めながら、つながりを大切にした交流に取り組みたい。